

文の成分 総復習

1 まず述語を見つける

文の成分は、文節が文の中で果たす役割。主語は「何が・誰が」に当たる部分、述語は「どうする・どんなだ・何だ」に当たる部分。助詞「が・は」だけで決めず、主語と述語が意味の上で対応するか確かめる。

2 五つの成分

主語「船が」→ 述語「進む」。

修飾語「ゆっくり」→ 「進む」を詳しくする。

接続語「だから」→ 前後の内容をつなぐ。

独立語「さあ」→ 呼びかけ・感動・応答などを表す。

本教材では、文節の働きと品詞を区別して答える。

3 何を詳しくするか

連体修飾語は体言を含む文節を修飾する。「白い→ 船が」。連用修飾語は用言を含む文節などを修飾する。「ゆっくり→ 進む」。修飾語は、すぐ後ろの文節にかかるとは限らない。意味のつながり確かめよう。

4 文節どうしの関係

主・述：船が→ 進む。修飾・被修飾：速く→ 進む。

接続：雨だ。だから→ 休む。

並立：空と ↔ 海が（対等に並ぶ）。

補助：読んで→ いる（後ろが意味を補う）。

関係の名称と、主語・述語などの成分名を混同しない。

5 文節と連文節

意味の上でまとまった二つ以上の文節を連文節という。「白い／船が／ゆっくり／進む」では、「船が」が主語、「白い船が」が主部。主語を一文節で聞か、主部を連文節で聞か、指定を確かめる。

白い（修飾語）

船が（主語）

二文節をまとめて主部

6 文法を推敲に生かす

主語と述語が対応しない文は、文末や主語を直す。修飾先が二通りに読める文は、語順や表現を変えて関係を明確にする。単に読点を加えるだけで十分か、直した文でも確かめよう。